

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
340001	X-21-B-2-340001	2	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	選択	1年
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	選択	1年
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	選択	1年
授業科目	担当教員			【1-3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
日本語学	佐々木 香織			【1-3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
		【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		

授業目的

国際社会に必要な知識を身に付けます。様々な資料を利用して、日本語に対する内省力、分析力を高め、日本語自体と、日本語が使われているこの社会の関係を見つめ直す作業を通じ、日本語に対する自分なりの考えを持つことが最大の目的です。また、読み、書き、話し、聞くという日本語の4技能の向上も目的とします。評価は相当に難しい期末テストのみです。出席はとりませんが、指名して発言を求めるとも頻繁にあります。障害等の関係で、ノートパソコンでしか、授業のノートをとれない学生は、授業の前に連絡した場合は、ノートパソコンの利用を認めます。また、学生からの要望があれば、適宜シラバスに書かれていないことも扱います。要望がある場合は、直接コメントカードなどで積極的にお知らせください。

各回の授業内容

<p>第1回 【授】 1. 日本語のプロフィール：日本語はどんな言語か、「日本語」を学ぶ意味は何か、考える。 【前・後】 事前に必ずシラバスを読んでから来てください。</p> <p>第2回 【授】 2. 日本語の多様性：地理的、歴史的な位相について考える。 【前・後】 自分と異なる話し方をする親戚や、よその地域から来た友人などのことばづかいをいろいろ思い出ししておく。</p> <p>第3回 【授】 3. 「標準語」、「共通語」、「方言」とはなにか。「新潟弁」の特徴について考える。 【前・後】 安田敏朗『<国語>と<方言>のあいだ 言語構築の政治学』を読んでおくとい。（事前でも事後でも）</p> <p>第4回 【授】 4. 「言葉の正しさ」と「日本語力」について考える。 【前・後】 あべやすし『ことばのバリアフリー』、打浪文字【著】『知的障害のある人たちと「ことば」』、かどやひでのり他編『識字の社会言語学』（生活書院）などを授業の前でも後でも読んでみてください。</p> <p>第5回 【授】 5. 日本語の歴史的变化1：万葉仮名の世界 万葉仮名の解読に挑戦する。 【前・後】 橋本進吉「古代国語の音韻に就いて」を事前に読んでおくとい。</p> <p>第6回 【授】 6. 日本語の歴史的变化2：平安、鎌倉期の日本語について考える。 【前・後】 事前に、「百人一首」をたくさん思い出し、高校の古典文法を復習しておくとい。</p> <p>第7回 【授】 7. 日本語の歴史的变化3：室町時代の日本語について、能・狂言の鑑賞を通して考える。 【前・後】 鑑賞する演目のあらすじ等を読む。（第6回目に何を見るか説明する）</p> <p>第8回 【授】 8. 日本語の歴史的变化4：「南蛮人」の見た日本語。ポルトガル式ローマ字で書かれた日本語を解読する。 【前・後】 事前に「キリシタン版」の著作物について、調べておく。（ネットでも、辞書でも可）</p>	<p>第9回 【授】 9. 日本語の歴史的变化5：日本語の近代化。江戸時代の日本語（主に浮世風呂）を読む。 【前・後】 江戸時代に書かれた文献を読む。</p> <p>第10回 【授】 10. 現代日本語の音声・アクセント・イントネーション 【前・後】 言語学を履修したことのある人は、音声学、音韻論について思い出しておくとい。</p> <p>第11回 【授】 11. 現代日本語の語彙 【前・後】 事前に http://www1.odn.ne.jp/drinkcat/quiz/index.html（100語）で自分の語彙量を推定しておく。</p> <p>第12回 【授】 12. 現代日本語の文法 【前・後】 文法用語でよくわからないものを調べておくこと。</p> <p>第13回 【授】 13. 現代日本語の談話とその文法 【前・後】 「文」よりも長い単位の文法を考える。</p> <p>第14回 【授】 14. 日本語の談話分析 【前・後】 国会答弁を題材に日本語談話の分析を行う。</p> <p>第15回 【授】 15. 日本語と社会・世界 同化圧力と「異化」作用の狭間で、どうい可能性が考えられるか。 【前・後】 これまでの講義をふり返って、必要であれば質問できるように準備しておいてください。</p> <p>第16回 【授】 テスト（記述式。提示された資料について授業で学んだことを踏まえた上で自分独自の考察をわかりやすく説明できたかどうかで評価。暗記ものではない） 【前・後】 返却希望者へのみ、コピーを返却。（人数によっては時間がかかります。成績入力後になります。）</p>
--	--

成績評価方法

毎回、コメントカードにコメントを記入してもらいます。質問や問題提起は大歓迎です。成績には関係ありません。出席はとりません。定期試験を成績の100%として評価します。

教科書・参考書

授業中に別途指示しますが、いずれも強制ではありません。一読をお勧めする参考文献は以下の通りです。『日本語(上・下)』金田一春彦(岩波新書<赤表紙>)、『標準語の成立事情』真田真治(PHP文庫)、『国語元年』井上ひさし(新潮社)、『日本語ウォッチング』井上史雄(岩波新書<赤表紙>)、『日本語は年速1キロで動く』井上史雄(講談社現代新書)、『日本語の歴史』山口仲美(岩波新書<赤表紙>)、『多民族化社会・日本』渡戸一郎他編著(明石書店)、『識字の社会言語学』かどやひでのり他編(生活書院)、打浪文字【著】『知的障害のある人たちと「ことば」』(生活書院)、有田佳代子他『多文化社会で多様性を考えるワークブック』(研究社)、あべやすし『ことばのバリアフリー』(生活書院)

受講に当たっての留意事項

言語学を履修していることが望ましいです。グループで作業・討論することがあるかもしれませんが。初対面の人との協同作業や会話ができない方の受講は厳しいと思われます。また、受講マナーの悪い人が近くにいたら、学生同士で注意しましょう。教師を含め周りの人に頼らず、自分の学習環境は自分で良好に保つことも能力の一つです。大学の授業は、1回につき予習復習などの時間が4時間程度していると考えると単位が出るのだそうです。ご注意ください。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施
○	国際交流基金シドニー日本人文化センターでの教員研修や講座運営などの経験を活かした指導	○

学習到達目標

日本語について、どのような言語であるか自分なりの説明ができ、社会における日本語の役割、課題が見いだせるようになること。また言語コミュニケーションを通じて、より良い社会を築くための方法をさぐっていくようになること。

JABEE

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習